

# 写真展

被災から10年—UIFA JAPON の見た岩泉町復興への歩み

(国際女性建築家会議日本支部)



「岩泉町役場提供、山口あまねさんおよび鈴木孝徳さん撮影」と記した写真以外はすべて UIFA JAPON の会員撮影。©UIFA JAPON

被災から復興へと歩みを続ける人々、その中からこぼれてくる希望、喜びや連帯意識、郷土への誇り、女性たちの活躍の力強さ、男性と女性が共同して復興の歩みを進めることの大切さなど、10年の記録です。

**会場** 中央区立女性センター「ブーケ 21」1 階ロビー

**日時** 2021 年 3.5 (金) - 3.18 (木)

**会場** 岩手県庁 1 階 県民室 (岩手県盛岡市内丸 10-1)

**日時** 2021 年 3.23 (火) - 3.31 (水)

**会場** アートフォーラムあざみ野

(男女共同参画センター横浜北 1 階交流ラウンジミニギャラリー)

**日時** 2021 年 4.11 (日) - 4.24 (土)

**会場** せんだい 3.11 メモリアル交流館

**日時** 2021 年 5.1 (土) - 5.30 (日)

**会場** 府中市庁舎 (1 階)

**日時** 2021 年 6.7 (月) - 6.24 (木)

**会場** 庁舎まるごとミュージアム (豊島区役所 6 階回廊)

**日時** 2021 年 6.1 (火) - 6.29 (火)

**岩手県岩泉町** (岩手県下閉伊郡岩泉町)

面積：992.36km<sup>2</sup>の本州一広い町  
(東西51km、南北41km)

人口：岩泉町 8,845人 4,372世帯  
(令和3年1月31日現在)

(小本地区 1,532人 676世帯)

人気観光スポット：龍泉洞 (現在短縮営業中)





### 1 どこでもカフェ

- ・お茶を飲みながら、ひきこもりがちな仮設暮らしの人々の話を傾聴することから始まりました。
- ・どこでも、赤い毛氈を敷いて、季節のしつらえを行い、お抹茶を点て、メリハリのある時間の中で、住民同士、住民とサポーターがつながっていきました。
- ・様々な話に耳を傾けながら、フォトグラフア誕生や、復興記録集の編集協力、そして住宅再建相談へと展開していきました。



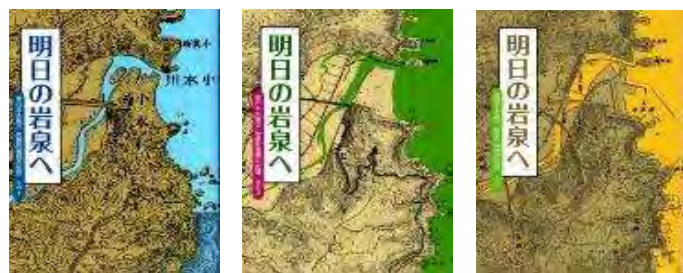
### 2 だれでもフォトグラフア

- ・フォトグラフア誕生  
「カフェは楽しいけれど、支援を受け取るだけでなく、自分たちも積極的にかかわれることをやりたい」  
当事者として岩泉復興の様子を自らの手で写真に残していくこととなりました。
- ・プロカメラマン橋本照高氏の技術指導を受けながら、フィルムの配布→集約とデータ化→合評会→毎年3月11日の写真展→講評というプロセスを繰り返しながら5年間継続し、6年目からこのチームは自主グループとして活動を始め、自主撮影会と写真展を継続しています。



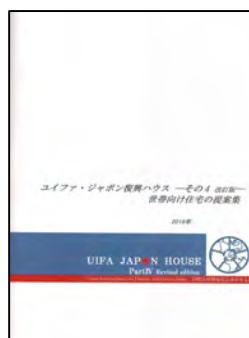
### 3 岩泉町復興記録集「明日の岩泉」その1、その2、その3 取材・編集協力

岩泉町復興記録「明日の岩泉へ」（その1～その3）に、復興プロセスの写真提供、インタビュー、座談会など、取材・編集協力をしました。フォトグラファーたちの撮影した写真がたくさん収められています。インタビューや座談会などにも協力してくれました。行政やプロの手では決して撮影できない、貴重な記録となっています。



### 4 復興住宅プラン集の編纂 と 住まいづくり相談カフェ

2016年10月の台風10号豪雨による濁流が小本川全流域を襲いました。熊本被災地で、「UIFA JAPON復興ハウス—高齢期のコンパクトな住宅の提案集—」を作成していましたが、岩泉町復興課より、水害被災者向けの家族向け住宅プラン作成の要望をいただき、「提案集その4、世帯向け」を作成し、行政や関係専門家と連携し、住宅再建に向け、「住まいづくり相談カフェ」を開催しました。





# 写真展「被災から 10 年

## —UIFA JAPON の見た岩泉町復興への歩み—

### ご挨拶

2011年3月11日に東日本を襲った津波を伴う大地震「東日本大震災」からこの3月11日で10年となります。

私たち UIFA JAPON という名の小さな団体は、被災前から縁のあった岩手県岩泉町の津波被災地と被災直後から交流を続け、現在までささやかな活動を展開してきました。

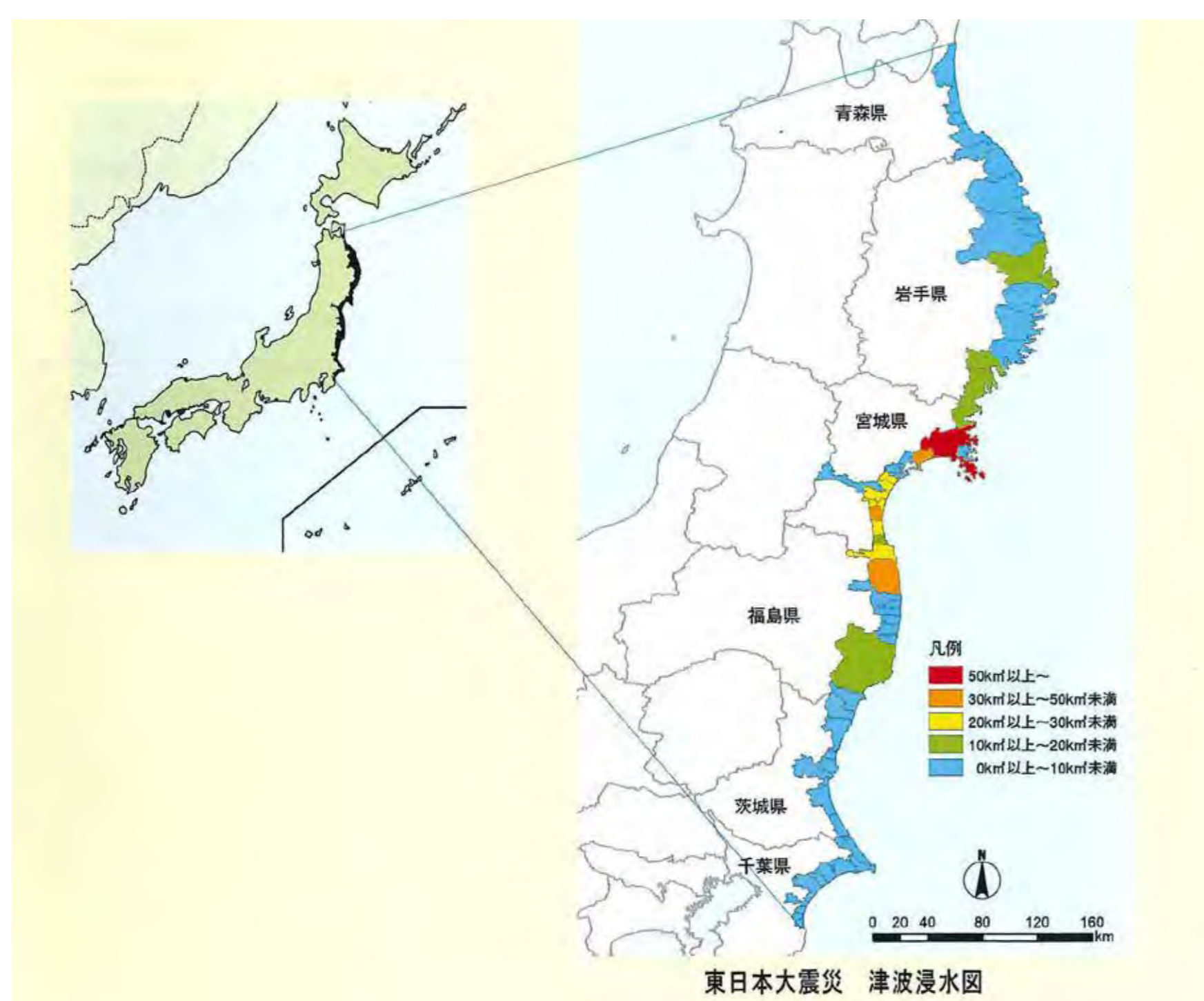
仮設住宅地の集会室を拠点としたお茶会「どこでもカフェ」の実施、復興を自分たちの手で記録するプロジェクト「だれでもフォトグラファ」の応援など、1年に何度か岩泉町小本を訪問することになりましたが、活動の合間に、復興への歩みを記録し、被災した人々との親交を深めてきました。結局10年間続いています。

その間、2016年の台風10号豪雨により小本川流域が甚大な被害を受け、私たちの活動も山間部へと広がりました。

2020年にはCOVID-19が猛威をふるい、残念ながら現地を訪ねることができませんでした。現地に思いをはせながらも、岩泉町をなんらかの形で応援できないかと企画したのがこの写真展であり、この10年間の歩みを住民でない、私たちの眼で記録したものを展示し、被災から復興へと歩むまちの様子を客観化してみようとする試みです。

被災から復興へと歩みを続ける人々、その中からこぼれてくる希望、喜びや連帯意識、郷土への誇り、自分たちのまちの美しさの再認識など、私たちのカメラを通して描けているかどうか—はなはだ心許ないことではありますが、このつたない記録の中からも、人々の笑顔がだんだんと増え、復興への道のりにおける女性たちの活躍の力強さ、男性と女性が共同して復興の歩みを進めることの大切さなどを、汲み取っていただけるのではないかと、ひそかに願っています。

あわせて、首都圏を襲う大災害の到来が識者から警鐘を鳴らされる今日、みなさまへのなんらかの参考になるならば、望外の幸です。



2021年3月

UIFA JAPON(国際女性建築家会議日本支部)  
UIFA JAPON 中央区支部

東日本大震災における津波浸水図  
(NPO 法人日本都市計画家協会作成)



# 津波！



2011年3月11日午後3時28分 小本水門に襲いかかる大津波（岩手県岩泉町提供）

## ■岩泉の被災状況

平成23年3月11日

14時46分頃：地震発生

震源地：牡鹿半島の東南東約130km付近

地震の規模：マグニチュード9.0（暫定値）

震度：4／岩泉（計測震度4.2）

14時49分：岩手県沿岸に大津波警報発令

14時50分：防災行政無線で避難指示

15時28分頃：津波最大波到達

津波遡上高：小本 20.4m

茂師 24.6m

浸水区域面積：小本・中野地区 約125ha

茂師・小成地区 約6ha



堤防を越えあふれ出した海水（岩手県岩泉町提供）



2011年3月13日「それでも歩き出す」（撮影：山口あまねさん／小本在住）



# 2011年4月 被災から立ち上がる…



津波の爪痕



小本における仮設住宅の建設が始まった。岩泉町では小本、岩泉、小成の3か所に仮設住宅を建設した。小本仮設住宅は、そのうち最大規模のものである



小本小学校からの避難路。この避難路は2009年に建設されていた。3.11には小学生たちはこの階段を使って避難した



町民会館での津波犠牲者とお別れ会



小本仮設住宅建設の工食用配置図

## ■ 岩泉町の被害

### ■ 死亡者数(平成24年12月末日現在)

被害場所	人数
小本	4
田野畑村	1
宮古市田老	4
宮城県石巻市	1
関連死	3
合計	13

### ■ 被害家屋(住家)数(平成24年1月17日現在)

被害程度	棟数	備考
全壊	177	流失80・全壊97
大規模半壊	10	
半壊	13	
一部損壊	8	
合計	208	

# 2011年5月



小本仮設住宅が完成した



破壊された小本漁港から水門を望む



仮設住宅の暮らしが始まった



港の破壊



# 2011年10月「どこでもカフェ」が始まった!



カフェのオープンを知らせるチラシがはためく



小本仮設住宅 お迎え準備



中学生も参加した



港付近の被災



小本仮設における「カフェオープン」の挨拶



支援物資一びつたりフィットする上着が見つかった!



津波で流された夏茶碗が流れ着いたがれきの上で発見された! うれしくて!



持ち主の手元に戻ってきた夏茶碗

# 2011年11・12月

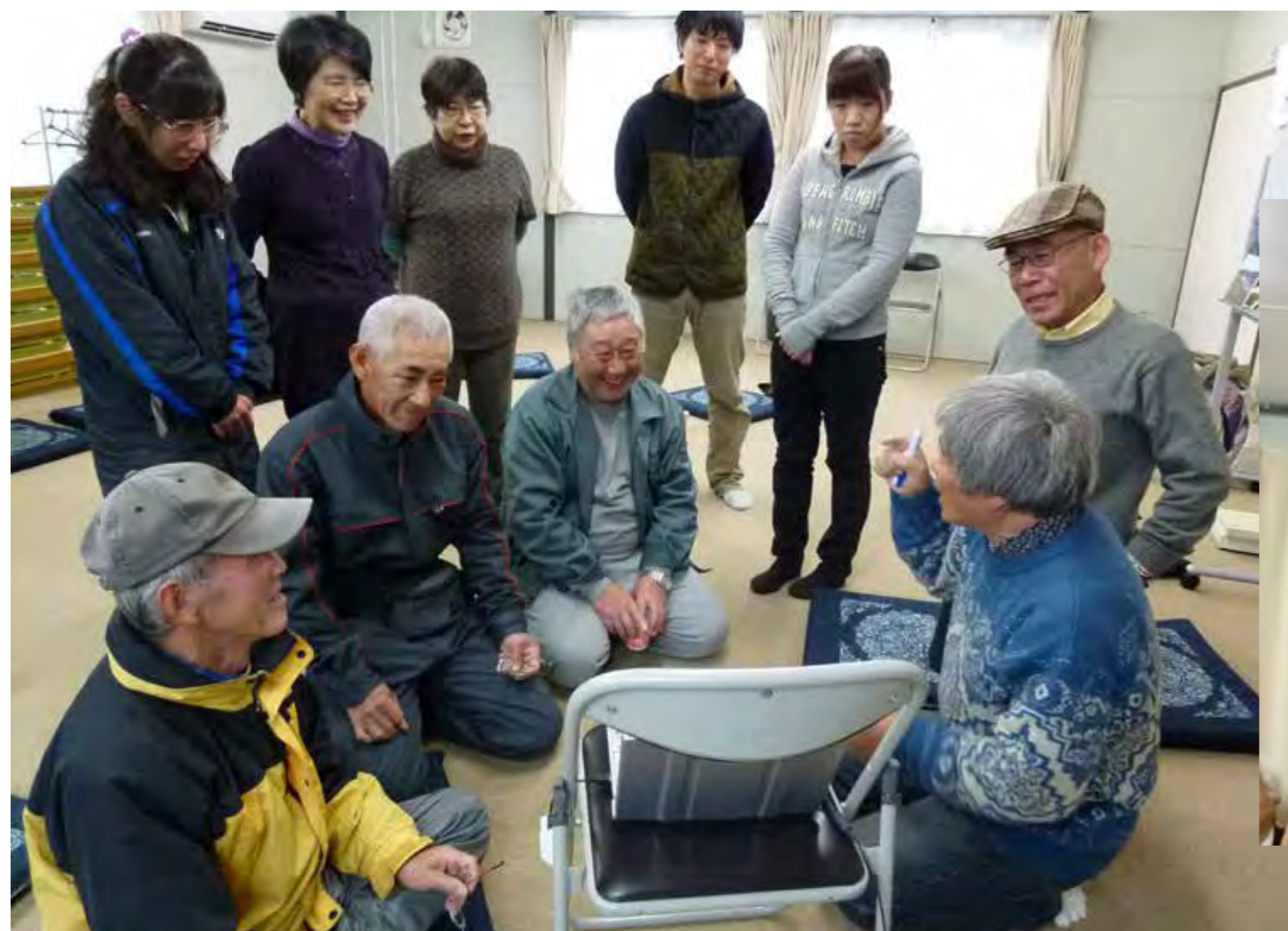
# 「だれでもフォトグラフィア」プロジェクトの始まり



「だれでもフォトグラフィア」プロジェクトが始まった—6歳から73歳までが参加した



かろうじて残った防潮林の松たち



熱心な「フォトグラフィア」たち



「フォトグラフィア」たちを指導した橋本カメラマン



# 2012年3月 被災から1年が経った



2012年3月11日の小本駅前広場で開催されたメモリアルイベント



「だれでもフォトグラファ」による第1回写真展「岩泉・小本のいま…春遠からじ」。設営にはみんなが参加した



小本駅構内の通路は展示場としてすばらしい!



岩泉仮設住宅でも「どこでもカフェ」開始



展示を前に橋本カメラマンの講評



第3回「どこでもカフェ」で寒さ対策の支援物資が並ぶ



岩手建築士会女性委員会有志も参加

# 2012年4・5月 少しずつ 少しずつ 復興は進む



あちこちで復旧工事が始まっている



生活の息遣いが感じられる仮設住宅



「だれでもフォトグラファ」撮影技術を学ぶ



仮設の岩泉町役場小本支所ができた!



仮設商店街も小本駅の近くに



初めて屋外の撮影会に臨んだ



# 2012年8・9月 手をつなごう!



三陸鉄道車両 「てをつな号 こどもたちにえがおを」



小本仮設前広場でたくさんの支援物資から試着



岩泉大神宮例大祭鹿踊りの行列



仮設住宅住民の手作りタワシ。仮設で手作りし、訪問者に販売された



小本仮設住宅集会場でのカフェ。東京から参加した学生たち



小本仮設前広場で「被災状況の聞き取り」に答える



岩泉大神宮例大祭お神輿



「どこでもカフェ」は小成仮設住宅でも開始

# 2012年10・11月



修復中の小本港



復興祈願！ おもと青空市—観光大漁船



復興祈願！ おもと青空市—七頭舞



# 2013年3月

# 日々の生活も前向きに……



第2回メモリアルイベント。花の祭壇の前で「津波に強いまちづくり目指す」生徒たち



メモリアルイベント。写真展会場に設営された甘酒と牛乳のふるまい。参加者の身体を温める



第2回写真展『春遠からじ』。小本駅のボックスカルバートの連絡通路で開催。力作が並ぶようになった



堤防の修復が進んできた。生き残った数本の松



発災2年、災害公営住宅の建設が進んできた



自分の作品をプレゼンする「フォトグラファ」。説明を聞く町長（当時）



岩泉仮設での「どこでもカフェ」和菓子や一服の抹茶で話はずむ



「フォトグラファ」が自分たちで設営を行うようになった

# 2013年5月

# 写真展 初の海外進出



写真展『春遠からじ』がアメリカヴァージニア工科大学へ海外進出。持参のパネルを前にロアノーク空港で、出迎いの先生と



写真展会場風景



ヴァージニア工科大学の学生たちも展示準備を手伝ってくれる



学長公邸での歓迎レセプション（ヴァージニア工科大学学長、ブラックスバーグ町長と）



# 2013年5月 海外からのお客さまも



同行した建築家の成瀬弘さんの説明で写真展を熱心に見るド・ラ・トゥール会長



穏やかな小本海岸



UIFA 会長ド・ラ・トゥールさんが訪問。小本仮設の「どこでもカフェ」で交流会



手作り和菓子とお抹茶



ソランジュ・デルベツ・ド・ラ・トゥール UIFA 会長みなさんの姿を見て「自分たちの方が励まされた」

# 2013年12月 3度目の冬



2階建森の越災害公営住宅も竣工間近。各玄関へのアプローチにスロープが設けられている



「だれでもフォトグラファ」撮影会。クリスマス前のこの季節は新巻鮭の寒風干しが絶好の被写体になった

カメラマンによる実践指導



軽装備のプレファブ仮設住宅の外壁に、発泡ウレタンの断熱材が冬の寒さ対策として吹かれた。プロパンガスが住まいの熱源を支えている



青空のもと、風に膨らむ洗濯物



寒風干荒巻鮭を撮る為に、洗濯物をよけてやるフォトグラファたち



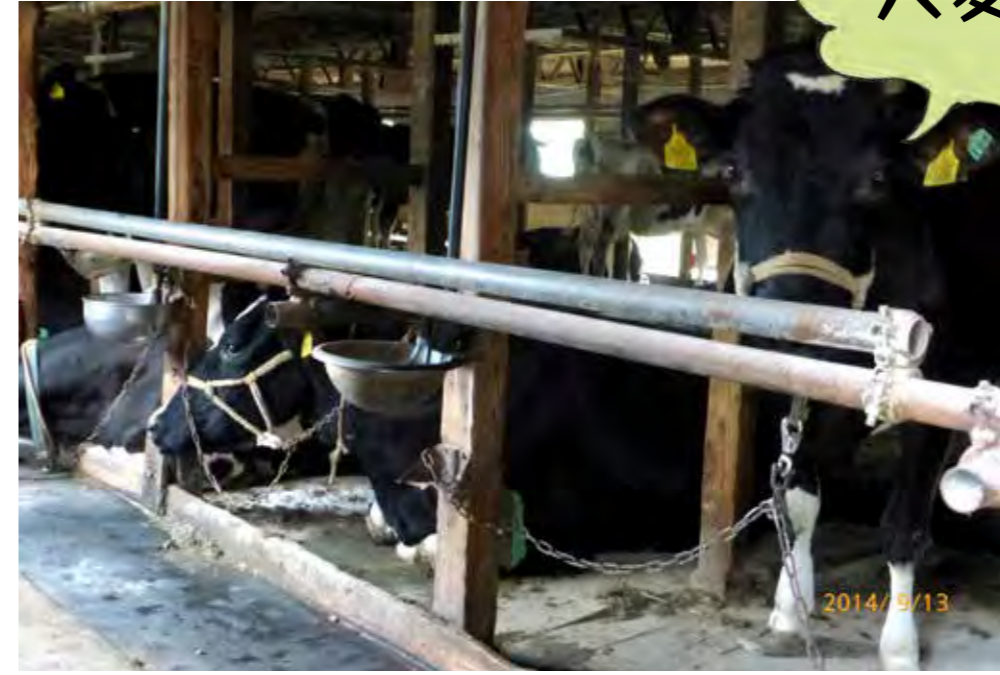
# 2014年3・5月 春の訪れ



春を待ちわびる列車が着いた



「どこでもカフェ」仮設の子どもたちもお手伝い



牛たちだって被災者

モー  
大変だった



「だれでもフォトグラファ」勉強会は続く



熱心なカメラマンの指導



小本災害公営住宅出来上がる



完成した森の越災害公営住宅集會場で「どこでもカフェ」開催



小本港で行われた撮影会

# 2014年9・11月

## 公共施設の建設も ガンガン進む!



小本津波防災センターの工事看板



9月、コンクリート杭の打設機が入り、小本津波防災センターが着工



こども園も完成間近



11月、杭・基礎工事を終え、立上り躯体工事が始まっている。



小本津波防災センターの完成予想図



小本小学校、小本中学校の工事も始まった



熱心な「だれでもフォトグラファ」合評会



# 2015年3・6月

# のんびりする時間もできた



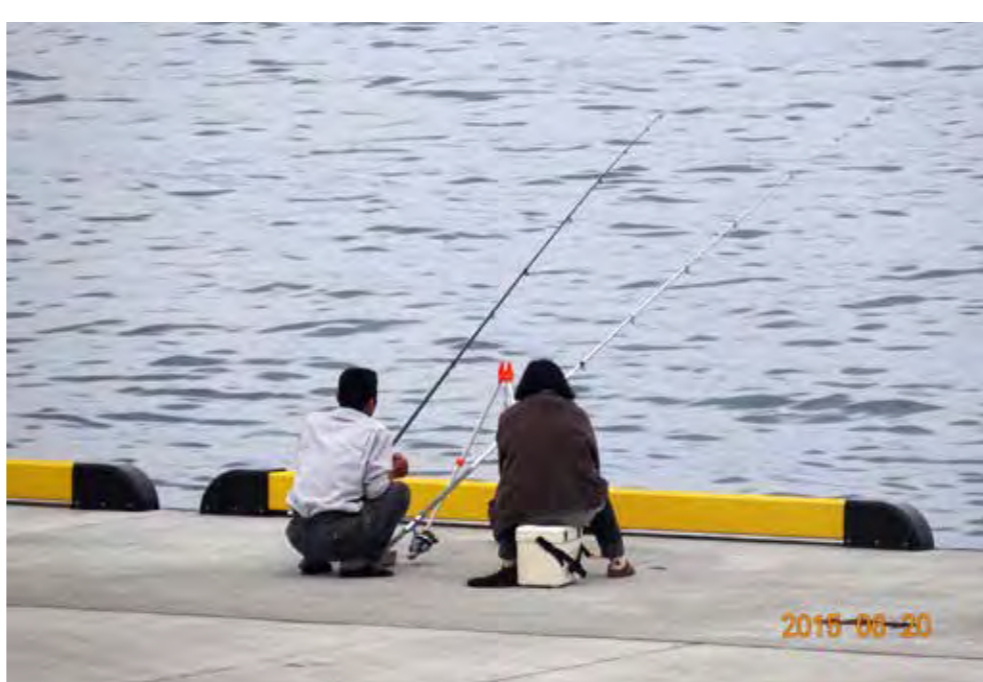
第4回写真展「春遠からじ」



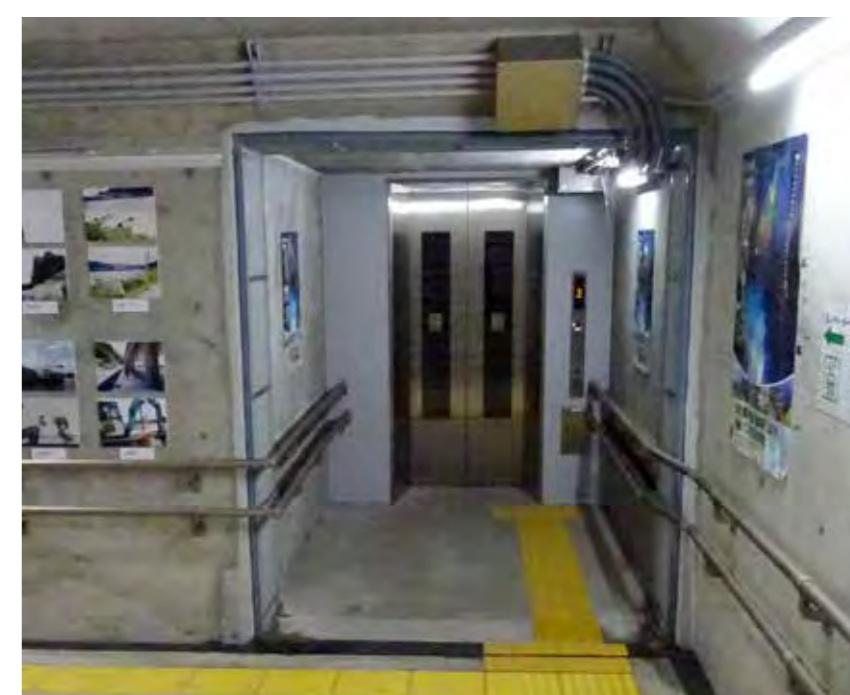
森の越災害公営住宅入居者による「自主カフェ」で人形劇の人形に笑顔



小本津波防災センターの全貌が立ち上がって来た工事現場



釣りする人たち



小本駅にエレベータができた！



小本駅の待合室でメッセージが書かれた「思い出ノート」を読む町長（当時）



左手こども園、右手仮設商店街



仮設住宅の広場でお昼寝

# 2015年11月

# 小本津波防災センター竣工!!!



東北縦貫自動車道の工事も進む



小本復活祭に集まった人々



復活祭を支える漁協婦人部

七頭舞の踊り手



七頭舞を舞う



自力再建進む



小本駅ホームから望む町の姿

建替え前の小本観光センター（小本駅）（2014年3月撮影）



小本津波防災センター完成！



# 2016年3月

# 第5回メモリアルイベントは「小本津波防災センター」で



小本津波防災センターでの第5回写真展『春遠からじ』



写真展を見ながら「どこでもカフェ」のお抹茶で寛ぐ



小本駅から望む災害公営住宅



第5回メモリアルイベント会場

# 2016年10月

# 台風10号豪雨被害



台風10号により破壊された橋のガードレールに瓦礫が引っかかる



小本川護岸はめちゃくちゃに



流れてしまった橋の残骸とえぐり取られた護岸が続く。橋だったはずの赤い鉄骨が打ち寄せられていた



小本津波防災センター掲示板の台風10号豪雨被害避難者情報



落ちてしまった橋げた、向こう岸には、洪水前そのままの溪谷の緑の斜面があった



小本川氾濫後の岩泉乳業前の橋の被災状況



被災した岩泉乳業のレストラン



小本川河川敷に重機やトラックが入り始めている

### ■ 建物被害 (平成30年3月27日現在)

区分	被害棟数	
	住家	非住家
全壊	453	536
大規模半壊	236	298
半壊	255	73
半壊に至らない	41	24
合計	985	931

【参考】東日本大震災における住家被害 208 棟

### ■ 人的被害 (平成31年3月31日現在)

死亡	25人 (東京都内在住者1人、関連死4人含む)
重傷者	1人
軽症者	4人

岩泉町ホームページより  
公開日 2019年08月30日  
最終更新日 2019年08月30日



# 2017年3月 災害に負けない



仮設住宅へ新鮮野菜を届ける人の車の前で



第6回写真展「春遠からじ」



岩泉町長（当時）・復興担当者と生活橋再建について話を聞く



第6回メモリアルイベント、紙製の白鳩風船を飛ばそうと見上げる子どもたち



三陸鉄道の車両は、元気に、にぎやかに走り続けている



台風10号の爪痕 急ピッチで進む龍泉洞付近の整備復旧工事



台風10号の被災者用仮設住宅、志田仮設で「は～るよこい は～やくこい」

# 2017年8・10月

# 台風10号豪雨災害から1年 明るいニュースも



1年後も流木が突き刺さったままの安家の住宅



未だ護岸が崩れたままの小本川



小さな仮設集会所も赤い毛氈でわか茶席の相談カフェに



台風10号豪雨災害から1年 追悼慰霊式



安家川に架かる橋、長く伸びた影が濁流の威力をより強く語っていた



滝上仮設住宅集会所で「住まいづくりの勘所」の紙芝居に真剣な眼差し



「全国まちづくり会議」で岩泉の被災後のまちづくりについて「フォトグラフィア」メンバーがプレゼンした



「優秀まちづくり賞」をいただいた



プレゼンも終わって（横浜市立大学）



# 2018年3・9月 道路も 橋も 住まいも



片側通行が続く小本川沿いの道路



第7回メモリアルイベントで歌を披露する地元幼稚園の子どもたち



小川生活改善センターで開催された住宅再建相談会。建築計画も進み資金面での相談が多くなった



宮古 - 田老縦貫自動車道工事も着々と進む



岩泉豪雨被災者用に作成したばかりの「ユイファ・ジャパン復興ハウス - その4 - 世帯向けの提案集」を見ながら新しい家への夢を膨らませる



メモリアルイベント開催前の「住まいづくり相談カフェ」



「浜の駅おもと愛土館」ができた



お魚たぐさんの愛土館店内

# 2019年3月 生活橋の修復も少しずつ



生活橋の工事も進んできた



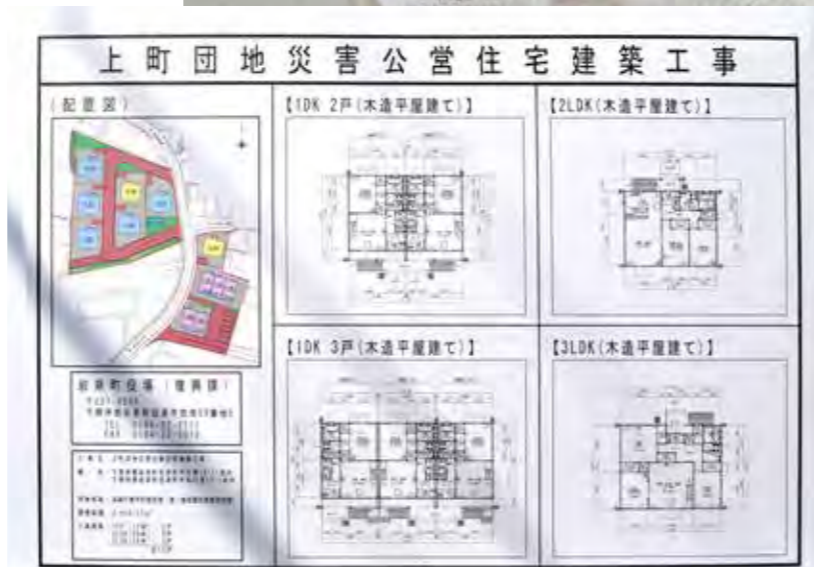
門町地区の2016年台風10号被災状況地図、流されて改修が必要な生活橋がプロットされている



岩泉町役場大会議室で住宅再建相談会。家族揃って相談に...



生活橋と護岸復旧工事



豪雨被災者の災害公営住宅の配置と平面図が書かれた工事用の看板



小川生活改善センターの住宅再建相談会。役場の担当者たちも「住まいづくりの勸所」の紙芝居で勉強した



工事用の足場パイプ組の生活橋も3年目となった



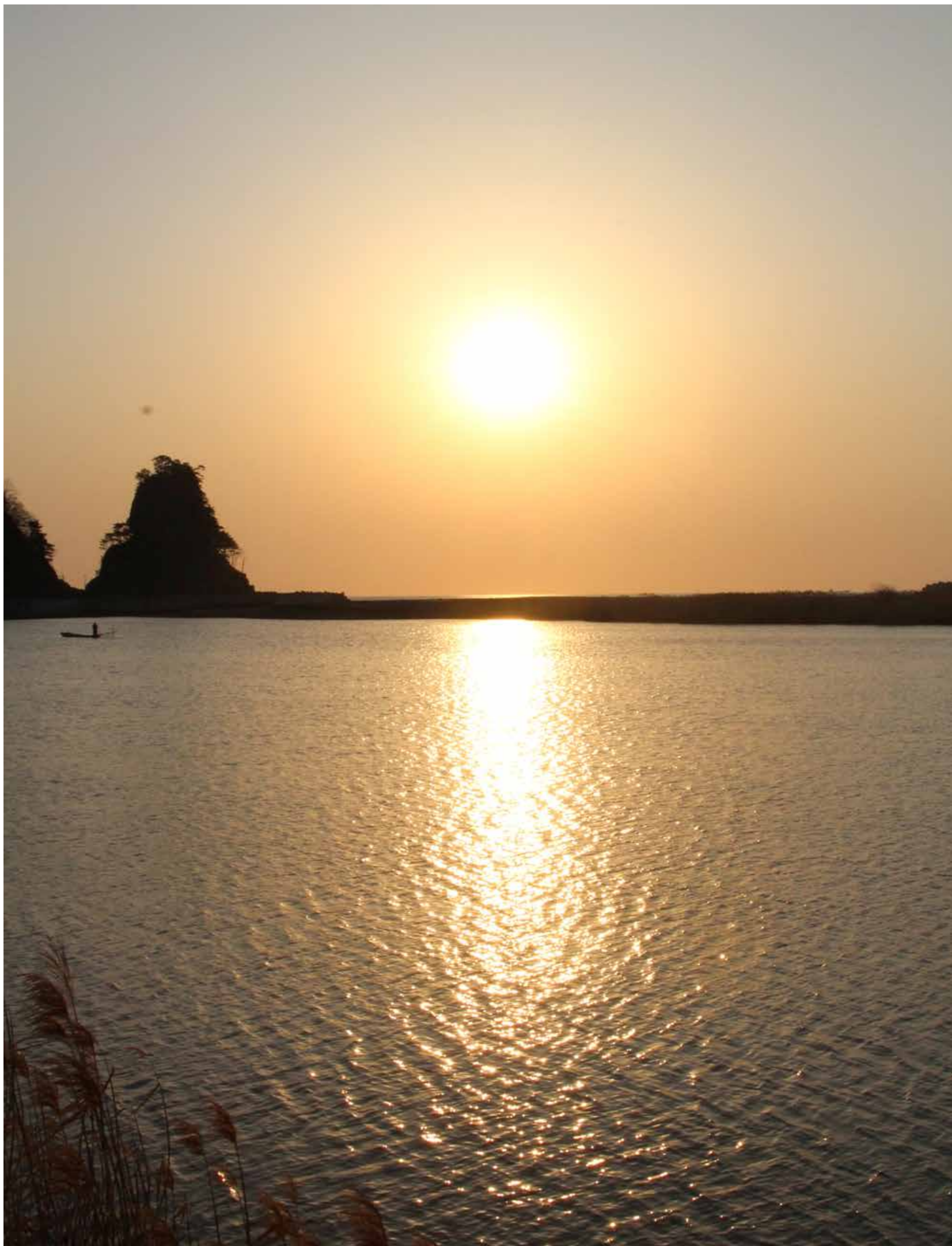
完成間近の災害公営住宅



# 明日の岩泉へ



メモリアルイベント - 復興の鳩風船が舞い上がる



1本になった小本港沿岸の松

小本のシンボル龍甲岩に朝日が昇る  
(撮影：鈴木孝徳さん/小本在住)